

趣旨説明

- 科学技術イノベーションを推進するためにもっとも重要な要素は「人」！
- なのに、我が国の若手研究者の置かれた状況は厳しい。
 - 問題の根底には、研究者の安定的ポストの減少や研究費の競争的資金化。評価で問題を解消することは難しい。
 - シンポジウム企画検討中にも、若手研究者の研究不正のニュース。研究開発評価は、若手研究者を過度の競争下におき、リスクの高い斬新な研究を抑制し、評価対応負担を生んでいる??
- 『文部科学省における研究及び開発に関する評価指針』の特筆課題の一つは「次代を担う若手研究者の育成・支援の推進」。
 - 日本学術会議（2012）『我が国の研究評価システムの在り方 ～研究者を育成・支援する評価システムへの転換～』
 - 文部科学省科学技術・学術審議会人材委員会(2015)『文部科学省の公的研究費により雇用される若手の博士研究員の多様なキャリアパスの支援に関する基本方針～雇用の公的研究機関や研究代表者に求められること～』
- 研究開発評価はその考え方の転換や運用の仕方により、若い研究者が新たな発想を発展させ、自立した研究者へ育っていくことや、多様なキャリアへ展開する能力を身に付けることを、推進することが可能~~?~~！

- しかし、具体的には何をすればよいのか？ 考え方やノウハウが共有されていない。
- 本シンポジウムでは、若手研究者の育成・支援を推進する評価として、以下の3点を事前に設定。（これを超える内容は講演にはあるかもしれない）
 1. 若手研究者のキャリアアップやキャリア継続において成長を促すことのできる評価 （主に研究者業績評価）。
 2. 若手研究者が実施する研究課題を支援し、若手を自立した研究者へと成長させる建設的な評価 （主に研究課題評価）。
 3. 研究課題や組織にて雇用している若手研究者を育成・支援する環境や方策を機能させているかを評価項目に含む評価 （研究課題評価、組織評価） や、資金制度が人材育成効果を有しているかを確認する評価 （プログラム評価）。
- 「若手研究者の育成・支援を推進する評価」とはどのようなものであるのかを一緒に考えたい。